校長室だより

令和８年度
６月１２日
ＮＯ．１０

自分の頭で考え、心で感じ、自分のすることを選ぶ…人生を紡ぐこと

「誰もが自分の遺伝的資質を通して、いま生きている環境の中で何をどのようにするのかを、自分の頭で考え、心で感じ、自分のすることを選びながら人生を紡いでいきます」
『教育は遺伝に勝てるか』（朝日新書）安藤寿康著

「かたつむり読書週間」にちなみ集会がありました。「里山レスキュー」里山の大切さを知って活動しました。

「窓の外のカタツムリを眺めながら本を読んで…」と話す学習環境委員さんの言葉がすてきでした。六月十五日から始まる「カタツムリ読書週間」に向けて、十日には集会が行われ、その中で学習環境委員による読み聞かせもありました。自分で考えて、みんなの前で読む姿は堂々としていました。

十一日には、ふるさと学習で「里山レスキュー」を行いました。六年生が「里山レスキュー」は何なのか、自主的に映像を作って、全校に教えてくれました。今年は学区の方も参加してくださいました。人にやらされるのではなく、自分から主体的に行うことは、責任を負いますが、自分たちでやり遂げた有用感も生まれます。一人一人が輝ける秦梨っ子に向けて、ふるさと学習も、大事な活動の一つです。

だいたいの掃除場所が決まっているだけで、子供たちは何をしたらよいか、道具を手に動き出します。うまくいかなければ自分で考えて修正し、余裕のある子は自然に目を向けたりします。そこにはこうしなければならないという正解はなく、自分で自分のすべきことを考えて動きます。もちろん、そんなことをＡＩは教えてくれませんし、聞くまでもないことです。そしてその過程が、人が自分で正しい判断を行えるようになる過程でもあります。大人はよくやることを限定してしまいがちですが、「なぜ？」「どうする？」「本当？」「これでいい？」を繰り返すことが、子供の成長にもなります。

先日、講演で、「ＡＩの情報を鵜呑みにすることで、自分で客観的、論理的に判断することができなくなる」と聞きました。学校でもそれぞれの正解に向かって、子供たちで考える自主的な活動を、これからも大切にしていきたいと思います。

・読書集会では、学習環境委員さんが「オニじゃないよ おにぎりだよ」（ｼｹﾞﾀｻﾔｶ作：えほんの杜）と「パンどろぼうとなぞのフランスパン」（柴田ケイコ：KADOKAWA）の本を読み聞かせしてくれました。
・「里山レスキュー」ではふるさとサポーターの鈴木宜行さん、川澄善久さんに見ていただきました。その他にも、学校運営協議会の蒲野会長はじめ学区、保護者の方にも一緒に活動していただきました。山もきれいになりました。ありがとうございました。